

「思考スキル」は、問題に取り組むことを通じて、みなさんに身につけてほしい力を表したものです。思考スキルは、特定の問題に限らず、さまざまな場面で活用することができる大切な力です。問題につまずいたときには、思考スキル着目してみましょう。どのような切り口で問題と向き合えばよいのか、どのように考え進めればよいのか、…など、手がかりをとらえるのに役立ちます。問題に取り組むとき、活用してみましょう。

思考スキル

○情報を獲得する

- ・問題文から情報や問題の条件を正しくとらえる
- ・図やグラフなどから情報を正しくとらえる

○再現する

- ・計算を正しく行う
- ・問題の指示通りの操作を正しく行う

○調べる

- ・方針を立て、考えられる場合をもれや重複なく全て探し出す
- ・書き出すことを通じて、法則を発見する

○順序立てて変化をとらえる

- ・変化する状況を時系列で明らかにする
- ・複雑な状況を要素ごとに筋道立てて明らかにする
- ・前問が後に続く問いの手がかりとなっていることを見ぬく

○特徴的な部分に注目する

- ・等しい部分に注目する
- ・変化しないものに注目する
- ・際立った部分（計算式の数、素数、約数、平方数、…など）に注目する
- ・和、差や倍数関係に注目する
- ・対称性に注目する
- ・規則や周期に注目する

○一般化する

- ・具体的な事例から、他の状況にもあてはまるような式を導き出す
- ・具体的な事例から、規則やきまりをとらえて活用する

○視点を変える

- ・図形を別の視点で見る
- ・立体を平面的にとらえる
- ・多角的な視点で対象をとらえる

○特定の状況を仮定する

- ・極端な場合を想定して考える（もし全て□□なら、もし□□がなければ、…など）
- ・不足を補ったり、余分を切りはなしたりして全体をとらえる
- ・複数のものが移動するとき、特定のものだけを移動させて状況をとらえる
- ・具体的な数をあてはめて考える
- ・解答の範囲や大きさの見当をつける

思考スキル

○知識

- ・情報を手がかりとして、持っている知識を想起する
- ・想起した知識を正しく運用する

○理由

- ・筆者の意見や判断の根拠こんきよを示す
- ・ある出来事の原因、結果となることを示す
- ・現象の背後はいごにあることを明らかにする

○置換ちかん

- ・問いを別の形で言い表す
- ・問題の状況じょうきょうを図表などに表す
- ・未知のものを自分が知っている形で表す
- ・具体的な数と比を自由に行き来する

○比較ひかく

- ・多角的な視点してんで複数のことがらを比べる
- ・複数のことがらの共通点を見つけ出す
- ・複数のことがらの差異さゐを明確にする

○分類

- ・個々の要素によって、特定のまとまりに分ける
- ・共通点、相違点そういてんに着目して、情報を切り分けていく

○具体化

- ・文章から筆者の挙げる例、特定の状況や心情を取り出す
- ・ある特徴とくちようを持つものを示す

○抽象化ちゆうしやうか

- ・個々の事例から具体的な要素を除いて形式化する
- ・個々の事例から共通する要素を取り出してまとめる

○関係

- ・文章どうしのつながりをとらえる
- ・部分と全体のそれぞれが互いに与えあう影響えいきやうに目を向ける
- ・ある目的のための手段しゅだんとなることを見つけ出す

○推論すいろん

- ・情報をもとに、先の変化を予測する
- ・文章から、筆者の考えを論理的に導き出す

○類推

- ・情報を活用して、さらに別の情報を引き出す
- ・個々の共通点から、特定の事象を導き出す
- ・要素間の意味をとらえ、情報を補おぎなう

2019年度 第2回小6統一合判 **国語**
偏差値5上げる！ この1問

2 論説・説明文 童門冬二「歴史を味方にしよう」

問六 ——線⑤「人びとが幸福に暮せる国をつくりたい」とありますが、織田信長はこれを実現するためにはどのような行動を取りましたか。四十五字以上七十字以内で答えなさい。

思考コード： **B 2**

思考スキル： **推論・具体化**

具体的な事象(具体化)を例に、筆者の考えを論理的に導き出す(推論)問題です。

考え方としては、「人びとが幸福に暮せる国をつくる」ために、織田信長がとった**具体的**な行動とは！？と考えるとわかりやすいでしょう。

すると——線⑤のすぐ後に、「そのビジョンを実現するためには、同時代に生きる人びとがいま、この国に何を求めているのかというニーズを知る必要があります」とあります。つまり、信長は「人びとが幸福に暮せる国をつくる」ために、まず人びとがこの国に何を求めているか(ニーズ)を知る必要があったのです。これが行動の1つ目になります。

次にこれを達成するために信長が**具体的**に行った行動は、「旅人や行商人のような、地域から地域へと広範囲に移動している人たちに目をつけ」て「リサーチを繰り返し」ていくことでした。

こうして信長は「日本の民衆が政治や社会に何を求めているのか」を知ることで、彼らにとっての「幸福」を理解したことになります。

よって①「同時代に生きる人びとがいま、この国に何を求めているのかを知る」ために②「地域から地域へと広範囲に移動している人たちと話をする」という2点を、字数指定に合わせてまとめると答えが完成します。

また「旅人や行商人のような、地域から地域へと広範囲に移動している人たちを清須の城下町で見つけると、特産物をきいて作り方を教えてもらった」は、この設問で問われている目的ではありませんので、不正解となります。

この問題は正答率が37.1%に対し、何も書かれていない無答率が36.2%でした。国語の読解は、本文中でヒントになりそうな箇所を探せるかどうかということがポイントになります。傍線部の前後に解答のヒントとなる内容が書かれていることが多いので、注意深く探してみましょ。また、そのヒントの内容が書かれている箇所が探せているけれど、記述ができなかったのであれば、その箇所に書かれている言葉を使いながらとにかく書いてみるのが大切です。解答が書ければ、あとは問題文の指定字数にあわせて、ことばを足したり削ったりするとまとめられ、記述問題に対応できるようになっていきます。見直しをするときは、自分が問題に対して、ヒントの箇所を探せているのか、記述問題であれば書くことができているのか、ということを確認しておきましょう。長文の記述問題は部分点がもらえることが多いので、とにかくあきらめずに書いてみましょう。

★設問別正答率

*色がついている問題が該当問題です。

国語								
問題番号	配点	思考	問題名	正答率	誤答率	無答率		
3	①		2	A1	ことわざ・慣用句	3.1	31.6	65.3
3	⑤		2	A1	ことわざ・慣用句	4.6	30.7	64.7
2	問8		5	B1	論説・説明文の読解	13.0	73.2	13.8
1	問5		5	B1	物語文・小説の読解	17.9	62.1	20.0
1	問3	B	2	B1	物語文・小説の読解	20.0	79.2	0.8
2	問5	2	5	B1	論説・説明文の読解	20.7	45.3	34.1
4	④		2	A1	短歌・俳句	21.8	50.7	27.5
3	③		2	A1	ことわざ・慣用句	23.8	14.6	61.5
3	④		2	A1	ことわざ・慣用句	26.0	15.5	58.5
1	問2		4	A1	ことばの知識	33.0	55.4	11.6
5	⑤		2	A1	漢字の書きとり	33.6	45.0	21.4
2	問3		5	B1	論説・説明文の読解	35.1	46.9	18.0
2	問6		7	B2	論説・説明文の読解	37.1	14.8	36.2
2	問9		5	B1	論説・説明文の読解	38.5	47.6	13.9
2	問5	1	5	B1	論説・説明文の読解	42.6	52.0	5.4
5	⑨		2	A1	漢字の書きとり	43.9	31.1	25.0
2	問2		5	B1	論説・説明文の読解	44.3	53.9	1.8
1	問11	II	3	B1	物語文・小説の読解	44.8	28.2	27.0
1	問9		5	B1	物語文・小説の読解	46.7	52.1	1.1
3	②		2	A1	ことわざ・慣用句	48.7	9.2	42.1
4	⑤		2	A1	短歌・俳句	49.4	40.6	10.0
2	問7	a	2	A1	ことばの知識	51.6	37.8	10.6
5	⑧		2	A1	漢字の書きとり	52.4	24.8	22.8
1	問3	A	2	B1	物語文・小説の読解	52.9	46.3	0.9
5	④		2	A1	漢字の書きとり	57.4	24.4	18.2
5	①		2	A1	漢字の書きとり	58.5	25.5	16.0
1	問10		5	B1	物語文・小説の読解	58.7	39.3	2.1
2	問7	b	2	A1	ことばの知識	58.8	30.8	10.3
1	問7		5	B1	物語文・小説の読解	62.1	37.0	0.9
5	②		2	A1	漢字の書きとり	63.3	22.7	14.0
5	③		2	A1	漢字の書きとり	64.1	27.7	8.2
1	問8		5	A2	ことわざ・慣用句	65.0	34.4	0.7
5	⑦		2	A1	漢字の書きとり	66.1	16.5	17.4
1	問3	C	2	B1	物語文・小説の読解	68.0	30.8	1.2
4	③		2	A1	短歌・俳句	71.1	21.5	7.4
4	①		2	A1	短歌・俳句	72.7	21.1	6.2
2	問4	3	2	A2	論説・説明文の読解	74.2	23.0	2.8
2	問4	2	2	A2	論説・説明文の読解	76.8	20.5	2.7
2	問1		5	B1	論説・説明文の読解	77.0	21.5	1.6
2	問7	c	2	A1	ことばの知識	77.0	13.2	9.9
4	②		2	A1	短歌・俳句	77.3	14.8	7.9
5	⑩		2	A1	漢字の書きとり	78.4	11.4	10.3
2	問4	1	2	A2	論説・説明文の読解	78.8	18.8	2.4
1	問11	I	3	B1	物語文・小説の読解	79.5	10.9	9.6
5	⑥		2	A1	漢字の書きとり	79.6	11.1	9.4
1	問4		5	B1	物語文・小説の読解	81.5	18.1	0.5
1	問1		5	B1	物語文・小説の読解	83.2	16.6	0.2
1	問6		5	B1	物語文・小説の読解	84.3	15.1	0.6

2019年度 第2回小6統一合判 **算数**
偏差値5上げる！ この1問

5 条件整理

ユカさんは、500円硬貨^{ごうかまい}1枚、100円硬貨2枚、10円硬貨3枚、1円硬貨4枚の全部で10枚の硬貨を持って買い物に出かけます。買い物するときは、できるだけおつりが出ないようにお金をしますが、おつりが必要な代金の買い物をしたときには、おつりの硬貨の枚数が最も少なくなるようにお金をします。ただし、おつりとして受け取る硬貨には、50円硬貨、5円硬貨もふくみ、必ず最も少ない枚数でおつりがもらえるものとしします。

例えば、130円の買い物をするときには100円硬貨1枚と10円硬貨3枚を出し、92円の買い物をするときには、100円硬貨1枚と1円硬貨2枚の102枚を出して、おつりとして10円硬貨1枚を受け取ります。このとき、次の問いに答えなさい。

この問題は、(1)～(3)を通して誤答率が50%を上回っています。また、(1)の正答率も32.2%となっています。多くの受験生が情報の^{かくとく}獲得に問題をかかえていると考えられます。問題文から情報を正しく獲得する力は、問題に取り組むために必要となる大切な力です。着目すべきポイント^{かくにん}を確認して、改めて問題に向き合ってみましょう。

(1) 70円の買い物をするときには、何円出せばよいですか。

(1) 思考コード：B1

思考スキル：情報を獲得する・再現する

まず、問題文を正しく読み取り、以下の情報を獲得します。

- ・500円硬貨1枚、100円硬貨2枚、10円硬貨3枚、1円硬貨4枚の合計10枚の硬貨を持っている
- ・買い物のとき、できるだけおつりがでないようにお金を出す
- ・おつりが必要となる買い物の場合、おつりの硬貨の枚数が最も少なくなるようにする。
- ・おつりは、最も少ない枚数でもらう。
- ・おつりには50円硬貨、5円硬貨もふくむ。

70円の買い物をする場合、手持ちの硬貨では70円ピッタリを支はらうことができません。そこで、獲得した情報をもとに、指示通りの操作を正しく再現して、おつりの硬貨の枚数が最も少なくなる支はらい方を答えます。100円硬貨1枚、10円硬貨2枚の合計120円となります。

- (2) ある代金の買い物をすると、おつりとして 50 円硬貨と 10 円硬貨を 1 枚ずつ受け取ります。考えられる代金として、最も大きいのは何円ですか。

(2) 思考コード：B 1

思考スキル：情報を獲得する・特定の状況を仮定する

(1)と同じく、問題文を正しく読み取り、以下の情報を獲得します。

- ・おつりとして 50 円硬貨と 10 円硬貨を 1 枚ずつ受け取る。
- ・考えられる代金として最も大きい場合を答える。

「おつりとして 10 円硬貨を 1 枚」を受け取るので、支はらうときに 10 円硬貨を使うことができます。つまり、10 円硬貨を使わずに支払うとき、代金が最も大きくなる場合を**仮定**します。

このとき、手持ちの硬貨のうち、10 円硬貨を除いた全ての硬貨を使う場合が最も大きくなります。 $500+100+100+1+1+1+1=704$ (円)から、50 円硬貨 1 枚と 10 円硬貨 1 枚分の 60 円を除けばよいことになります。

- (3) ユカさんは商店街のチラシを見て、A 店で 57 円、B 店で 145 円、C 店で 426 円の品物を買うことにしました。このとき、ユカさんは、それぞれの品物を買ったときの手持ちの硬貨の合計枚数が常に最も少なくなるような順で買い物をしようと考えました。ユカさんはどのような順で買い物をすればよいですか。買い物をする店の順番を解答らんから左から順に A~C の記号で答えなさい。

(3) 思考コード：B 2

思考スキル：情報を獲得する・調べる

・順序立てて変化をとらえる

(1)、(2)と同様に、問題文を正しく読み取り、以下の情報を獲得します。

- ・A 店で 57 円、B 店で 145 円、C 店で 426 円の品物を買う。
- ・それぞれの品物を買ったときの手持ちの硬貨の合計枚数が常に最も少なくなるような順で買い物をする。

まず、最初に買い物した後、手持ちの硬貨が何枚残るか、それぞれの場合を**調べます**。このとき、「残りの金額」と「残りの硬貨の枚数」を混同しないようにします。

- ・最初に A 店で買い物をする場合：8 枚残る
- ・最初に B 店で買い物をする場合：10 枚残る
- ・最初に C 店で買い物をする場合：7 枚残る

ここから、最初に買い物をする店が C 店と決まります。同じように 2 番目に買い物をする店を調べ、硬貨の枚数の**変化をとらえて**いきます。

- ・次に A 店で買い物をする場合：4 枚残る
- ・次に B 店で買い物をする場合：6 枚残る

これらのことから、2 番目に買い物をする店が A 店と決まるので、買い物をする順番は C、A、B とわかります。

2019年度 第2回小6統一合判 **理科**
偏差値5上げる！ この1問

2 生物のつながりについて

(10) 秋になると、このビオトープにはたくさんのトンボが飛んでいました。このビオトープの中に全部で何匹のトンボがいるのか疑問に思ったひかりさんは、次のような実験を行いました。

- ① ビオトープにいるトンボを18匹つかまえて、そのすべてに印をつけた。
- ② 数日後、20匹のトンボをつかまえたところ、そのうち8匹に印がついていた。

このビオトープの中には、全部で何匹のトンボがいると推測できますか。なお、この実験を行った数日間でビオトープの外部とはトンボの出入りはなく、トンボの数の増減もなかったものとします。

思考コード： B 1

思考スキル： 理由・置換

この問題は正答率7%、誤答率が84.5%でした。(20-8)+18=30匹と解答した受験生が多かったのではないだろうか？「①で印をつけたトンボの数：ビオトープ全体にいるトンボの数」の比と、「②で印のついていたトンボの数：②でつかまえたトンボの数」の比が等しくなることを根拠(理由)として比の式を作り、この比の式を変換していくことで目的の数値を求めること(置換)が、この問題の考え方のポイントです。このことを意識して、以下の解説を確認してみましょう。

【解説】

ビオトープ全体にいるトンボの数に対する、①で印をつけられたトンボの数の割合と、数日後につかまえたトンボの数に対する、印のついていたトンボの数の割合は等しくなることから、ビオトープ全体にいるトンボの数を□ とすると、

$$18 : \square = 8 : 20$$

という式が成り立ちます。この比の式は、

$$\begin{aligned} \square \times 8 &= 18 \times 20 = 360 \\ \square &= 360 \div 8 = 45 \end{aligned}$$

と変換できるので、ビオトープ全体にいるトンボの数は45(匹)と推測されます。

2019年度 第2回小6統一合判 **社会**
偏差値5上げる！ この1問

3 明治～第二次世界大戦までの歴史に関する問題

問4 下線④に関連して、日本が連合国側に立って参戦したのは日英同盟の規定に従ったからです。しかしイギリスは日露戦争の時は中立を守りました。その理由を日英同盟の条文の一部を現代語に訳した資料を参考にして答えなさい。

資料

前文	清国での日本とイギリスの権益を相互に承認する。
第一条	日本が韓国で政治・商業・工業上の権益を持つことを、イギリスは承認する。
第二条	日本またはイギリスが他国と戦争になった場合、片方の国は中立の立場を厳正に守る。
第三条	2カ国以上が日本またはイギリスとの戦争に加わった場合、片方の国は参戦する。

【解答例】

日露戦争は、日本とロシアの二国間の戦争だったので、第二条の規定に基づきイギリスは中立を守った。

思考コード： B 2

思考スキル： 知識・理由・推論

本問は第一次世界大戦と日露戦争において、同盟国の立場にある国が参戦するか否かを資料の日英同盟の条文を参考に推論する問題です。同盟国として参戦・中立どちらの立場を採るかを決定するポイントは戦争の相手国の数です。第一次世界大戦のイギリスの相手国はリード文の内容からもわかる通り、ドイツ・オーストリア・トルコなどの同盟国で2カ国以上ですので、日英同盟第三条の規定により同盟国である日本はこの戦争に参戦しました。日露戦争は1904年におこった戦争で、日本（大日本帝国）の戦争相手国はロシアのみ一カ国です。よって同盟国であるイギリスは日英同盟第二条の規定を根拠（理由）に中立の立場を厳正に守ることとなりました。

この問題は正答率が24.8%、無答率が59.8%でした。「問題文が長い」、「資料がある」、「記述問題」は難しいと思いがちですが、日英同盟や第一次世界大戦の知識がなくても、リード文や資料から読み取って解ける問題です。資料の条文の「前文」と「第一条」は戦争についての内容ではないので、「第二条」と「第三条」が解答のヒントになっていることがすぐにわかると思います。「問題文が長い」、「資料がある」という場合は、問題文(リード文)や資料の中にヒントがある可能性が高いです。また、記述問題についても部分点がもらえる場合があるので、まずは問題文をきちんと読んでから解けそうな問題なのか、難しい問題なのかを判断するようにしましょう。

★設問別正答率

*色がついている問題が該当問題です。

社会								
問題番号		配点	思考	問題名	正答率	誤答率	無答率	
2	問4		2	A1	日本の林業	4.8	22.8	72.4
4	問4		2	B1	第二次世界大戦後の歴史	9.1	84.7	6.2
4	問6		3	B1	第二次世界大戦後の歴史	10.7	67.1	22.2
3	問9	⑨	2	A2	昭和時代の歴史	13.6	79.3	7.1
3	問3		2	A2	明治時代の歴史	17.0	41.2	41.8
3	問9	⑧	2	A2	昭和時代の歴史	18.2	75.1	6.7
2	問3	▶(2)	2	B1	日本の林業	19.4	78.9	1.7
4	問5		2	A2	第二次世界大戦後の歴史	19.9	72.9	7.3
3	問5		2	A2	大正時代の歴史	20.1	76.2	3.8
1	問2	▶(2)	2	A1	日本の農業	22.0	53.4	24.6
1	問4		2	A2	日本の農業	22.6	36.6	40.8
3	問4		4	B2	大正時代の歴史	24.8	13.9	59.8
2	問5		2	A2	日本の林業	25.3	70.5	4.3
3	問6		2	A2	大正時代の歴史	29.5	65.8	4.7
2	問1		2	A2	日本の林業	30.4	67.3	2.3
2	問11		2	A1	日本の水産業	30.6	66.1	3.3
1	問7	▶(3)	4	B2	日本の農業	32.2	16.5	45.5
2	問14		2	A1	日本の水産業	33.6	59.9	6.5
2	問7		2	B1	日本の水産業	34.2	63.4	2.3
4	問7	▶(1)	2	A2	第二次世界大戦後の歴史	34.7	58.9	6.4
3	問7		2	A1	昭和時代の歴史	35.5	60.8	3.8
2	問13		2	A2	日本の水産業	35.7	60.6	3.8
1	問7	▶(1)	2	A1	日本の農業	36.0	19.7	44.2
4	問3	▶(1)	2	A1	第二次世界大戦後の歴史	36.3	58.2	5.5
1	問9		2	A2	日本の農業	40.9	55.3	3.8
2	問9		4	B1	日本の水産業	41.6	54.7	3.7
1	問7	▶(2)	2	A1	日本の農業	42.4	26.1	31.5
2	問10		2	A1	日本の水産業	46.0	51.4	2.6
4	問2		3	A2	第二次世界大戦後の歴史	46.7	49.5	3.8
4	問3	▶(2)	2	A2	第二次世界大戦後の歴史	46.7	48.4	4.9
4	問7	▶(2)	2	A3	第二次世界大戦後の歴史	47.9	44.4	7.7
1	問8		2	A1	日本の農業	49.7	47.6	2.7
4	問1		2	A2	第二次世界大戦後の歴史	54.8	40.5	4.7
2	問3	▶(1)	2	A2	日本の林業	55.1	43.7	1.2
1	問2	▶(1)	2	A2	日本の農業	57.5	40.6	1.9
1	問5		2	A2	日本の農業	59.2	37.9	2.8
3	問8		2	A1	昭和時代の歴史	59.6	36.8	3.6
1	問3		2	A1	日本の農業	62.7	36.4	1.0
1	問6		2	A1	日本の農業	65.4	8.7	25.9
2	問2		2	A1	日本の林業	66.5	32.4	1.0
3	問2		2	A2	明治時代の歴史	67.2	30.5	2.3
1	問1		2	A1	日本の農業	69.2	18.5	12.3
3	問1		2	A1	明治時代の歴史	69.9	28.1	2.1
2	問12		2	A1	日本の水産業	70.0	26.8	3.3
2	問6		2	A2	日本の水産業	76.9	21.8	1.3
2	問8		2	A1	日本の水産業	100.0	0.0	0.0